環境活動に関する報告書2019

2018年4月～2019年3月活動報告

お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験＆学習会（2018 年 6 月）

採取した
プラスチック片

pal*system | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

パルシステムは第1回「ジャパンSDGsアワード」を受賞しました

生活協同組合 パルシステム東京

ごあいさつ

生活協同組合 パルシステム東京
専務理事　杉原　学

2018年度、パルシステム東京エネルギー政策の具現化である電力小売事業の「パルシステムでんき」の保有件数が大きく伸張し、ＦＩＴ電気（再生可能エネルギー）率は80％に届く水準に到達しました。2018年7月に閣議決定した第５次エネルギー基本計画では、再生可能エネルギーを国内の主力電源化を目差すとしながらも2030年のエネルギーミックスでは22％～24％に留まっていることや、原子力の依存度をできるかぎり低減するとしながらも20％～22％と再稼動前提の矛盾した計画になっています。また、プラスチック問題においては、国際的な危機意識が高まる中で日本国内の動きも加速しており、社会的な関心も一層強くなっています。

パルシステム連合会の2019年度方針では、昨年に引き続き「産直と環境のパルシステム」のブラッシュアップをかかげて、持続可能な環境保全と資源循環の社会づくりを推進することを基本視点としています。「循環型の社会づくりと再生可能エネルギーへの転換」を重点課題とし、組合員やメーカーとともにプラスチック削減や地球温暖化防止への取り組みを強化していくことや、水環境を意識した石けん運動の再構築など、組合員にとっても身近な課題解決に向けて動き出しています。

パルシステム東京でも、エネルギー政策に基づき、脱原発運動、再生可能エネルギーへの転換、省エネ活動の推進などを連合会方針と連携して温暖化防止対策の強化を図るとともに、身近な環境課題への取り組みを広げたいと考えています。

〈組織概要〉

名称	生活協同組合パルシステム東京
設立	1970年4月1日
理事長	松野　玲子
専務理事	杉原　学
本部事務所	東京都新宿区大久保2-2-6ラクアス東新宿
事業エリア	東京都全域（島しょを除く）
配送センター	17箇所
福祉事業所	14箇所
保育園	２箇所
職員数	1,853名 (正規:443名／専門:220名／定時職員:1,190名)
総事業高	752億2,400万円
組合員数	49万7,878人

（2019年3月末現在）

CONTENTS

1　ごあいさつ・組織概要
2　パルシステム東京環境方針
3　事業と環境活動
4　事業活動における資源の使用と排出物
5　組合員との約束
6　パルシステム東京エネルギー政策
7～10　エネルギー政策の推進
11～12　水環境の保全と石けん利用普及
13～14　有害化学物質削減と廃棄物削減に向けた3R活動の推進
15～16　生物多様性保全と森林保全
17～19　事業活動における資源の使用、排出の状況
20～21　パルシステム東京環境キャンペーンの活動一覧
22　リユース・リサイクル商品一覧
23～25　2018年度環境関連広報物一覧
26～29　2018年度環境活動に関する監査所見

パルシステム東京環境方針

理念

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を基本理念とします。

環境に対しての基本姿勢

パルシステム東京は、理念に沿って組合員への商品・サービスの供給や、消費者の視点から様々な社会的課題の改善に向けた運動を展開しています。
2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の環境や人への影響、地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少など環境問題が深刻化する中、パルシステム東京の社会的責任として再生可能エネルギーの拡大、脱原発社会に向けた取り組みの実施、国内環境保全型農業の推進や環境配慮商品の開発と利用普及、事業・サービスに伴う環境負荷低減、省エネ活動を含めた組合員とくらし方の見直し活動をすすめることであると認識し、以下の環境活動に取り組みます。
なおこれらの活動を進めるにあたり環境影響を評価したうえで技術的・経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境汚染の防止や環境マネジメントシステムの継続的改善をはかります。
また環境側面に関わる法律、規制、条例及びその他の受入を決めた要求事項を順守します。

(1) 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。
(2) 脱原発社会実現の為の運動に取り組みます。
(3) CO_2排出総量の削減に取り組みます。
(4) くらし方の見直し運動を組合員参加で広げます。
(5) 資源循環型社会を目指した活動を進めます。
(6) 環境に配慮した商品づくりと普及に取り組みます。
(7) 森林を守る運動を進めます。
(8) 生物多様性の保全に取り組みます。
(9) 日本の食料自給率向上に取り組みます。

以上の活動をすすめるため、全役職員が環境方針を理解し、行動できるよう周知徹底をはかります。
環境方針は、パルシステム東京内外に広く開示します。

１９９９年１０月２８日　制定
２０１３年　４月　１日　改定
２０１７年　６月　１日　改定

生活協同組合パルシステム東京
専務理事　杉原　学

事業と環境活動

環境マネジメントの推進体制

パルシステム東京は、次世代へつなぐ持続可能な社会を作るため、環境方針に沿って目標を設定し、エネルギーや資源を節約し、CO_2や廃棄物の削減に取り組んでいます。
環境活動の評価は専務理事の諮問機関「環境監査委員会」（組合員、有識者、学識経験者で構成）で、年4回実施しています。（環境監査委員の所見は26～29ページ）

環境管理最高責任者
（専務理事）

環境管理責任者
（常務理事）

環境管理責任者補佐
（執行役員）

諮問機関
環境監査委員会
（外部有識者3人、組合員3人）

事務局
（環境推進課）

本部サイト

- 新宿本部サイト
- 江東センターサイト
- 港センターサイト
- 池尻センターサイト
- 足立センターサイト
- 世田谷センターサイト
- 大田センターサイト
- 練馬センターサイト
- 江戸川センターサイト

配送センターサイト
17事業所

- 板橋センターサイト
- 青梅センターサイト
- 八王子センターサイト
- 昭島センターサイト
- 多摩センターサイト
- 東村山センターサイト
- 府中センターサイト
- 三鷹センターサイト
- 狛江センターサイト

福祉事業所サイト
10事業所（単独事業所）

- 東雲陽だまりサイト
- 辰巳ビルサイト
- 辰巳陽だまりサイト
- 八潮ビルサイト
- 中野陽だまりサイト
- 第二中野陽だまりサイト
- 上町陽だまりサイト
- 愛宕陽だまりサイト
- 府中陽だまりサイト
- 足立陽だまりサイト

実行：全部署・全役職員　サイト責任者：事業所長（センター長、施設長）

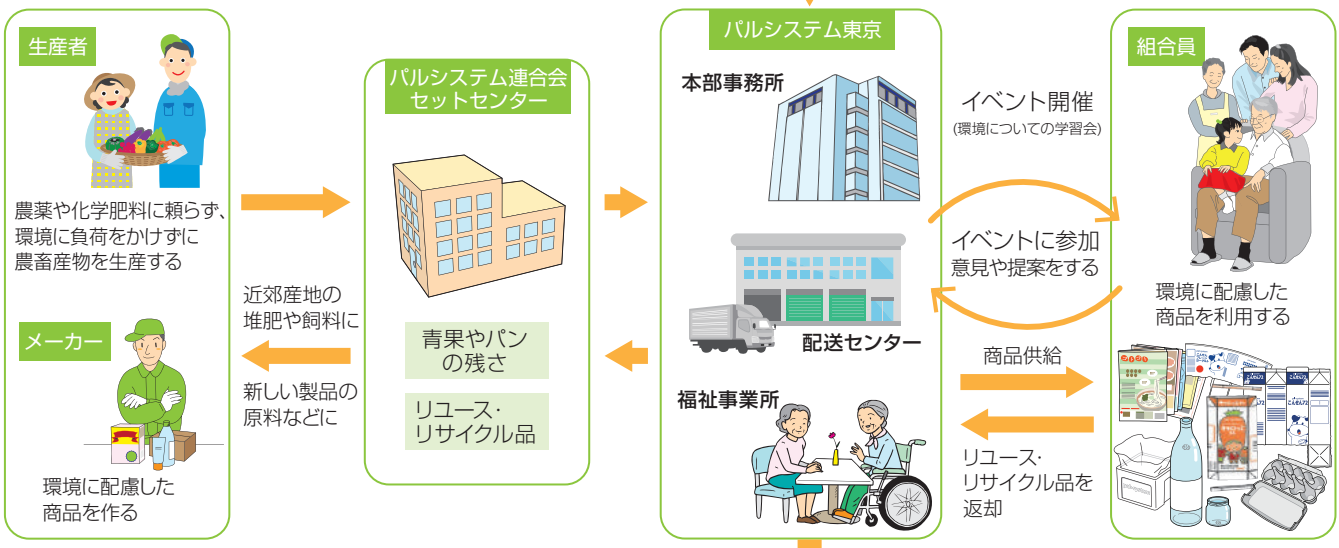
事業活動における資源の使用と排出物

パルシステム東京では、様々な資源を使いながら事業活動を行なっています。
とりわけ、基幹事業の商品供給では、組合員宅へのお届けに配送トラックが不可欠であり、車両燃料対策は急務となっています。また、近年需要が伸びている冷凍商品を安全にお届けするためには、ドライアイスの使用が欠かせません。
現在、事務所のCO_2排出削減のため、事業所の使用電力についてパルシステムでんき《ＦＩＴ電気（再生可能エネルギー）》への切り替えをすすめています。将来的には、ＦＩＴ電気（再生可能エネルギー）をエネルギー源としたＥＶ（電気自動車）による商品供給を目指して、研究に着手しています。
また、冷凍蓄冷剤※の導入によりドライアイス使用を減らしていくなど、引き続き省資源型の事業への転換をすすめます。
※2018年度は足立センター（35台）、昭島センター（28台）の凍結庫を設置しました。

2018 年度に使用した資源の量

使った資源

車両燃料　115.0万ℓ	ガス(施設) 6.1万㎥	ドライアイス 4,668t
電気　650.2万kWh	水　3.2万㎥	OA用紙　172.8t



排出したCO_2

3,489t

車両燃料 2,669t
電気　683t
ガス（施設）137t

廃棄物

一般廃棄物 69.3ｔ	食品残さリサイクル
産業廃棄物 43.0ｔ	6.8ｔ（福祉事業所）

※詳細は17ページ　※上記以外に車両の排気ガス、冷凍冷蔵庫のフロンガス、ドライアイス等を排出しています。

組合員との約束

パルシステム東京では、最高意思決定機関「総代会」での議決に基づいて事業活動を行なっています。
下記は2019年6月に開催された「総代会」で、総代（組合員の代表）により議決された内容（抜粋）です。

第 27 回通常総代会2号議案（事業活動方針）

【 重点項目3 】「よりよい社会」をつくるために、一人ひとりが学び行動します。

「パルシステム東京エネルギー政策」に基づき、再生可能エネルギーの普及と脱原発運動を推進します。
(1)脱原発とCO_2削減のため、再生可能エネルギーを中心としたパルシステムでんきの普及をすすめます。
(2)安全で持続可能な地域、自然環境を守るため、核燃料サイクルや原発の稼働に反対します。
(3)地球温暖化防止のために、家庭と事業での省エネ活動をすすめます。

【 継続して取り組む項目 】 資源循環型社会を目指した活動をすすめます。

(1)水環境の保全をめざし、石けんの良さを広め、使い続けるための啓発活動を行います。
(2)有害化学物質削減と、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを推進します。
(3)プラスチックの総量削減に向けて、パルシステムグループ全体で取り組みます。
(4)組合員が参画しやすい生物多様性保全と森林保全の活動に取り組みます。

4つの活動テーマとSDGs

組合員と約束した方針を、以下の4つのテーマに置き換えて環境活動を推進しています。

1．地球温暖化対策　～「パルシステムでんき」と「脱原発」の取り組み～

組合員への出前講座、職員向け電力学習会、省エネアドバイザー制度、発電施設見学会、脱原発運動など

2．水環境の保全　～石けん生活を広げよう～

組合員への出前講座、石けん商品広報、香害学習会、石けん工場見学会、サンプル配付、NO_2測定など

3．“3R”で、ごみを減らそう　～プラスチック問題を見直そう～

3Rの推進、リサイクル回収強化、リサイクルセンター見学会、職員向け廃棄物管理学習会など

4．生物多様性保全と森林保全　～里山を体験しよう～

生き物モニタリング、いなぎめぐみの里山での取り組みなど

パルシステム東京エネルギー政策

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を理念として掲げ脱原発と再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。「六ヶ所再処理工場の本格稼動の中止を求める運動」などさまざまな活動をすすめてきました。
２011年12月に策定されたエネルギー政策は、3つの柱で構成されています。持続可能な社会をめざし、地域社会の再構築を支援し、自然の力を最大限に活かす再生可能エネルギーへの転換をすすめています。

Ⅰ．生協自らが消費者として選択する

(1)地球温暖化防止を大きな目標に掲げ、省エネルギーをすすめCO_2と温室効果ガスを削減します。
(2)脱原発の立場で再生可能エネルギーを選択し、将来的には自給率100％をめざします。

Ⅱ．生協自らが事業者として行う

(1)地球温暖化防止をめざし、CO_2を削減し、省資源、省エネルギー型の事業を行います。
(2)生協事業の使用電力を再生可能エネルギーに転換します。
(3)環境に配慮し、再生可能エネルギーを活用した生産や輸送をコンセプトにした新たな商品開発を実現します。
(4)組合員の家庭における再生可能エネルギーの推進やCO_2削減を実現します。
(5)生産から消費、廃棄にいたるエネルギーのプロセスに総合的に関与し、環境負荷を低減する具体的な事業モデルに取り組みます。
(6)地域社会や生産者と連携し、安全で生産コストの安い再生可能エネルギーに効率よく転換する仕組みづくりを支援します。
(7)最新エネルギー情報の収集と調査に努め、事業への有効な導入の検討を行います。

Ⅲ．生協自ら地域・社会に運動をおこす

(1)生産者や社会へ働きかけ再生可能エネルギーによる日本のエネルギー自給率の向上を率先してすすめます。
(2)国のエネルギー政策の転換をめざし、国や自治体に対し情報公開の要求や政策提言を行ない、安全性、経済性の観点からも原子力発電の停止を求めます。
(3)確実かつ有効な情報等をわかりやすく提供し、地域社会や家庭での省エネ活動支援や暮らし方の見直し提案を広げます。

2018年度の活動報告

エネルギー政策の推進

地球温暖化対策　～「パルシステムでんき」と「脱原発」の取り組み～

2013年、パルシステム東京の子会社である「㈱うなかみの大地」で事業所向けの新電力事業を立ち上げました。2016年の電力小売全面自由化を受けて組合員への供給をスタートさせ、2018年3月末時点ではパルシステムグループ全体で20,765件の組合員が利用しています。私たちは、今後もグループ全体で再生可能エネルギーを推進していきます。

年度	エネルギー政策にまつわる主な経過
2013 年	・パルシステム東京の子会社「㈱うなかみの大地」により新電力事業を開始 ・電力供給 17 事業所、FIT 電気（再エネ）率 59.2%
2014 年	・電力供給 31 事業所、FIT 電気（再エネ）率 79.3%
2015 年	・電力供給 36 事業所、FIT 電気（再エネ）率 66.9%
2016 年	・パルシステムグループ全体への展開を目的に「㈱パルシステム電力」へ事業を移譲。 ・10 月から組合員に電力供給開始。契約数 1,692 世帯（パルシステム東京 983 世帯） ・電力供給 56 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 75.8%
2017 年	・大手電力会社と同料金へ改定 ・組合員契約数 7,195 世帯（パルシステム東京 1,825 世帯） ・電力供給 79 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 79.2%
2018 年	・組合員契約数 20,765 世帯（パルシステム東京 7,854 世帯） ・電力供給 104 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 78.8%

2018 年度の新電力事業に関する活動

「パルシステムでんき」の推進のため、環境キャンペーン（6～7月）での発電施設見学会や組合員・役職員向けにエネルギー政策学習会を開催した他、地域イベントやセンターまつりでの呼びかけ等、積極的なPRを行ないました。また、配送センター職員を対象にした「発電産地研修」や、パルシステム電力と環境推進課職員による学習会を開催しました。

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
6月 14 日	小水力発電施設バス見学会（那須野ヶ原土地改良区連合）	22人／17人
8月4日	エネルギー政策学習会　再生可能エネルギーの現状と課題	47人／31人
8月 25 日～ 9月 22 日	【三鷹センターによる広報協力】（4会場5回開催）地球温暖化防止啓発映画「地球が壊れる前に」上映会チラシ配付　主催：認定 NPO 法人太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）	280人
10月26日～27日	配送センター職員向け「発電産地研修」	25人
11月11日	しあわせの経済フォーラム「パルシステムでんき」ブース出店	－
11月24日 12月8日	子どもの甲状腺検診「パルシステムでんき」ブース出店	－
1月19日	環境省・国立環境研究所　地球温暖化 W 講演会 共同開催：認定 NPO 法人太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）、パルシステム東京	118人／58人
2月14日	【広報協力】映画「おだやかな革命」上映会チラシ配付 主催：認定 NPO 法人太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）	60人 ※組合員外含む
3月9日	太陽光発電 FIT　買取終了後はどうなる？～2019 年問題学習会～ 共同開催：認定 NPO 法人太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）、パルシステム東京	71人／32人
通年（3月末迄）	委員会による電力学習会／講師：パルシステム電力・環境推進課職員	6企画93人
通年（3月末迄）	職員向け電力学習会／講師：パルシステム電力・環境推進課職員	9センター581人

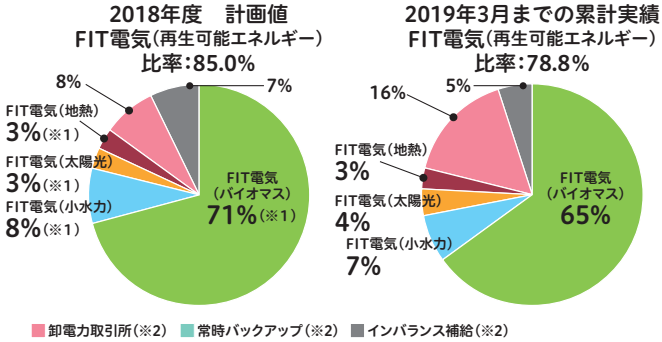
2018 年度　株式会社パルシステム電力関連の報告

■供給規模

供給事業所数	グループ 104 事業所
組合員世帯	グループ 20,765 世帯（パルシステム東京 7,854 世帯）
総電力供給量	88,459,807kWh（前年比 178.1%）
FIT 電気（再エネ）率	78.8%（前年比 99.5%）

■取扱量実績　単位 (kWh)

種類別電源量	合計
バイオマス発電	70,902,000
小水力発電	8,276,000
太陽光発電	4,395,000
地熱発電	2,852,000
その他（東電など他社融通）	18,968,000
総仕入れ電力量合計	105,395,000



※1 この電気を調達する費用の一部は、パルシステム電力以外のお客さまも含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、CO_2 が排出されないことを始めとする再生可能エネルギーとしての価値を訴求するにあたっては、国の制度上、非化石証書の使用が必要とされています。パルシステム電力が販売する FIT 電気は、CO_2 排出量について火力発電なども含めた全国平均の電気の CO_2 排出量を持った電気として扱われます。
※2 この電気には、水力、火力、原子力、FIT 電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。パルシステム電力の 2017 年度の CO_2 排出係数は、0.105kg-CO_2/kWh（基礎排出係数）、0.582kg-CO_2/kWh（調整後排出係数）です。

■発電所の状況

2018年度中に「パルシステムでんき」の発電産地が保有する発電所数は、30組織46箇所まで拡大しました。
特に象徴的だったのは、2018年10月から売電を開始した一般社団法人富岡復興ソーラーなどが出資する（株）さくらソーラー。原発事故により避難生活を余儀なくされている福島県富岡町の地域住民が主体となって立ち上げられた、原発事故からの復興支援を目的とする太陽光発電事業です。福島県内には、ほかにも「パルシステムでんき」の発電産地が3つあり、私たちは、今後も組合員との交流を進め県内でのネットワークを強化し、福島県内の発電産地をさらに拡大していく予定です。

富岡復興ソーラー高津戸・清水前発電所（福島県富岡町）

2018 年度の脱原発に関する活動

6～8月にかけて、全センターで「さようなら原発1000万人署名」に取り組み、14,608筆（6,544枚）の署名が寄せられました。11月、センター長会議内で贈呈式を開催し、署名呼びかけ人の鎌田慧氏へ署名を贈呈しました。署名は「『さようなら原発』一千万署名市民の会」を通じて、内閣総理大臣及び衆参両議院議長へ提出されました。9月と3月には、「『さようなら原発』一千万署名市民の会」主催の「さようなら原発全国集会」に参画しました。パルシステム神奈川ゆめコープとともにブースを出店し、「パルシステムでんき」のPRやヒバクシャ国際署名の呼びかけを行ないました。
また、意見書の提出と職員向け脱原発ニュース「NO NUKES タイムス」の発行を行ないました。

「さようなら原発 1000 万人署名」贈呈式（11 月 9 日）

さようなら原発全国集会（3 月 21 日）

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
6月～8月	全センターで「さようなら原発 1000 万人署名」の配付・回収	6,544枚 14,608筆
7月2日	職員向け脱原発ニュース「NO NUKES タイムス」Vol. 5 発行	―
9月 17 日	いのちをつなぎ　くらしを守れ　フクシマと共に 9.17 さようなら原発全国集会	50人／35人
3月 11 日	職員向け脱原発ニュース「NO NUKES タイムス」Vol. 6 発行	―
3月 21 日	3.21 さようなら原発全国集会	71人／30人

■パルシステム東京が提出した意見書

開催日	意見書名	宛先
6月8日	第５次エネルギー基本計画策定に向けた計画案に関する意見	資源エネルギー庁
6月 19 日	玄海原子力発電所４号機の再稼働に反対する意見書（抗議文）	内閣総理大臣
7月 27 日	「日本原子力発電株式会社東海第二発電所の発電用原子炉設置変更許可申請書に関する審査書案に対する科学的・技術的意見の募集」に対する意見書	原子力規制委員会 委員長

2018 年度の地球温暖化防止に関する活動

私たちが日々のくらしの中でエネルギー（電気・ガス・灯油やガソリン・水道）を使うと、CO_2が排出されます。産業革命以降、CO_2を初めとした温室効果ガスが急激に増え、世界の平均気温は1880年から2012年の間に0.85℃上昇しています。2018年12月、国連気候変動枠組条約カトヴィツェ会議（COP24）では、パリ協定運営のためのルールブックが採択されました。パリ協定から3年がかりでの合意です。しかしながら、2018年の世界の平均気温は過去4番目に高くなり、2015年から4年連続の高温となる見通しだと発表されました。地球温暖化の進行に伴い気温の上昇傾向が止まらない状態で、早急な対策が必要です。パルシステム東京では、組合員に家庭での省エネなくらしを提案しています。

家庭の省エネ診断

パルシステム東京は「東京都家庭の省エネアドバイザー制度」※の統括団体として、組合員省エネアドバイザーを養成しています。東京都が認定する「家庭の省エネアドバイザー」の資格を取得した組合員アドバイザーが組合員宅を訪問し、個々に合わせた省エネアドバイスを行ないます。例えば、ワットアワーメーター（小型電力測定器）で冷蔵庫等の消費電力量を計測したり、光熱費の検針票やお手持ちの家電から、電気・ガスの使い方をアドバイスします。受診者からは、冷蔵庫の温度設定やテレビの輝度（画面の明るさ）の変更方法等、家庭の省エネのポイントが分かって良かったとご好評をいただいています。今後も多くの組合員に省エネを提案していきます。

省エネ訪問診断

○訪問診断15件（2018年度累計）○省エネアドバイザー　登録10名（2019年３月時点）

※「東京都家庭の省エネアドバイザー制度」は2019年３月31日をもって終了しました。

省エネ出前講座

組合員を対象に、省エネ出前講座や省エネアドバイスを行なっています。

ソーラーカー工作教室＆
地球温暖化講座（７月21日）

開催日	企画名（主催者名または会場名）	参加人数
５月19日	地球環境フェア 2018（足立区）	約100人
６月16日	産直フェスタ（練馬センター）	244人
６月20日	省エネ出前講座（輝き発見委員会）	10人
６月24日	M- マルシェ（協同組合三鷹中央通り商店会、M- マルシェ実行委員会）	約50人
６月27日	2018 年度省エネアドバイザー内部研修	8人
７月、12月	エリア協議会にて省エネリーフレット配付（夏、冬）	延べ500人
７月21日	ソーラーカー工作教室＆地球温暖化講座（三鷹センター）	35人
10月11日	省エネ出前講座（あきる野委員会）	約10人
10月20日	環境フェスタくにたち（環境フェスタくにたち実行委員会）	18人
10月20日・21日	花と緑の祭典 2018（秋）（中野区・中野区花と緑の祭典実行委員会）	23人
11月17日	なかのエコフェア 2018（中野区）	12人
	合計　約1,010人	

パルシステム東京「エコライフチェック」

パルシステム連合会による「エコアクションカレンダー」終了後、組合員からの要望によりパルシステム東京で 2016 年に独自開発しました。「エコライフチェック」では入力したパルシステム資材（リユース・リサイクル）の数量や、水や光熱費の記録をもとにCO_2排出量を把握でき、月次でのグラフ化や前年比較などの表示を確認することができました。リリース以降、断続的に広報を行なってまいりましたが、登録者数と利用継続が伸び悩み、2019 年３月 31 日をもってサービスを終了しました。

水環境の保全と石けん利用普及

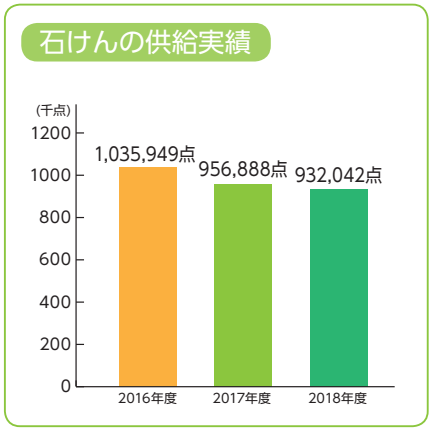
水環境の保全　～石けん生活を広げよう～

パルシステム東京では、1970年代に深刻になった湖や河川等の自然環境の汚染を解決しようと、40年以上石けん運動に取り組んできました。石けんは脱脂能力や洗浄力も高く、洗浄剤としてすぐれた能力を持ちながら、すすぎにより水で薄まると界面活性作用を失い、水環境や人体への影響が少ない安全性の高い物質です。パルシステム東京では、今後も継続的に石けんの利用促進に取り組みます。

■石けんの供給点数

石けんの供給点数は97.4%と前年度を下回りました。ただし、運動商品として位置付けているプライベート・ブランド商品4点※の供給点数は100.1%と前年度を上回り、特に6月に広報強化を行なった赤ちゃん向けボディソープ「YUMYUMベビーソープ」は前年度比120%と大きく伸長しました。

※運動商品は「粉石けん水ばしょう」(3kg)、「やっぱり石けん!洗濯用粉石けん」(1kg、1kg×4)、「YUMYUMベビーソープ」(250ml/500mlの各ボトル/詰替用)、「me・gu・ru[めぐる]ボディソープ」(ボトル/詰替用)を指します。



2018 年度の石けん利用普及の活動 1

石けん出前講座

組合員の石けん講師が、委員会や職員向けに石けんの良さや上手な使い方を伝える学習会を行なっています。
石けんや有害化学物質削減をテーマにした委員会企画《20企画、参加者261人》

石けん出前講座（3 月 25 日）

石けん工場見学会

6月13日、パルシステムのプライベート・ブランド商品である「こんせんくん石けん」、「YUMYUMベビーソープ」などを製造している玉の肌石鹸株式会社の墨田工場を訪問しました。《参加者24人：うち組合員19人》

玉の肌石鹸工場見学会（6 月 13 日）

石けんサンプル配付

委員会活動の一環として、毎年4月に石けんサンプルの注文を受け付け、委員会の企画や地域活動で配付しています。石けんサンプルの注文は151委員会からあり、総注文数は15,908点でした。政策・環境推進部が作成している小冊子「いのちをつなぐ　石けんノート」は340冊の注文がありました。

いのちをつなぐ　石けんノート

環境キャンペーンで石けんのおすすめ

パルシステム東京の社会活動の広報紙、「エコ&ピースナビゲーター」6月号では、石けんの魅力やパルシステムのプライベート・ブランドのラインナップ、中でも「YUMYUMベビーソープ」の使いやすさやシンプルな原材料について詳しく説明しました。

※ 24 ページも併せてご覧ください。

2018 年度の石けん利用普及の活動 2

■多部署連携で実現した取り組み

●6月16日、練馬センターで開催された「産直フェスタ」に政策・環境推進部が出展し、石けん商品や「パルシステムでんき」のおすすめ、さようなら原発1000万人署名、多摩産材の割箸の無料配付など、多岐にわたる取り組みを行ないました。《参加者：244人》

●6月30日、パルシステム東京の保育園「ぱる★キッズ府中」で開催されたイベント「ほんもの実感！作ってみよう！食べてみよう！こんせんくん家の台所　～梅干・梅シロップ作り体験～」の中の1コーナーとして、赤ちゃんにも地球環境にもやさしい石けんの話をしながら、PB商品「YUMYUMベビーソープ」のデモンストレーションを行ないました。《参加者：39人》

●2018年6月より、福祉事業所の現場の実態に合わせた「石けん利用ガイドライン」を定め、運用を開始しました。利用者の意向や保健所の指導により、事業所内の石けん使用は100％には至っていませんが、ガイドラインでは手洗い、台所、浴室、洗濯について、必須項目や使い分けなど、段階的に使用範囲を示し、内部環境監査にも点検項目として組み込む運用としました。

●多彩なテーマを取り扱うワークショップ企画「子育て個育てワークショップ」のうち、環境キャンペーン月間（6・7月）に開催された4企画で、石けんサンプル（me・gu・ru[めぐる]ボディソープミニ60ｍｌ）の配付を行ないました。パルシステムの利用を始めたばかりの組合員にも石けんの良さを広めたいと、当該商品の説明文も一緒に添えて配付しました。
《参加者：50人（4企画合計）》

●12月13日、PLA（パルシステム・ライフ・アシスタント）が講師を務めた石けん学習会「たった4つで？！家中ピッカピカ！！自然派大そうじ♪」では、参加者に石けんサンプル（粉石けん水ばしょう50ｇ、クエン酸50ｇ）を配付し、学習した内容を家でもすぐに取り組めるような工夫を行ないました。
《参加者17人：うち組合員13人》

練馬センター「産直フェスタ」（6 月 16 日）

ぱる★キッズ府中で石けんのおすすめ（6 月 30 日）

プライベート・ブランド商品の「me・gu・ru[めぐる] ボディソープ」

せっけん運動ネットワークの取り組み

●2018年5月、シャボン玉フォーラムin北海道が「大地が育むいのちと水　～未来をつくるのは私たち～」をテーマに開催され、組合員、役職員合わせて7名が参加しました。

●7月はシャボン玉月間。「せっけんでおうちもくらしも地球もきれい」をキャッチコピーにしたポスターを配付し、事業所での掲示や組合員活動の企画で活用しました。

●行政行動については、清瀬市の区市長より、首長メッセージを頂きました。

シャボン玉フォーラム in 北海道（5 月 12 ～ 13 日）

有害化学物質削減と廃棄物削減に向けた３Ｒ活動の推進

“３Ｒ”で、ゴミを減らそう　～プラスチック問題を見直そう～

プラスチックごみ、特に直径５mm以下のマイクロプラスチックが環境に与える影響が世界的な問題となっています。海洋生物等による砕片化したプラスチック製品の誤飲や、化粧品類に使用されているマイクロプラスチックが生物の体内へ取り込まれた際の化学物質の毒性に関する影響も懸念されています。パルシステム東京は、「リデュース（発生抑制）」イコール「プラスチック廃棄総量削減取り組み」とし、リデュース対応を行なった商品の利用向上に取り組みました。また、リユース・リサイクルに継続して取り組むことで、資源循環型社会を目指しています。

2018年度の有害化学物質削減の活動

■有害化学物質削減のための学習会

①「お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験＆学習会」

講師：高田　秀重氏（東京農工大学）

６月９日、東京農工大学農学部　環境資源科学科教授の高田秀重氏の指導により、同学科1年生の約50人と一緒に砂浜で「マイクロプラスチック」を採取しました。小学生から大学生までの親子が参加し、大学院生の手作り回収袋とピンセットを使い、プラスチック片やレジンペレットを集めて大学の研究材料として提供しました。採取後には海洋汚染問題の現状やリデュース（発生抑制）の大切さについて解説いただきました。《参加者29人：うち組合員21人》

②「香害学習会『香害110番を開設して』」

講師：田中　輝子氏（日本消費者連盟）

７月19日、近年盛んに被害が報告されるようになった香りの被害「香害（こうがい）」についての学習会を開催し、2017年に香害110番を開設された日本消費者連盟の田中輝子氏に被害の実態と私たちにできる対策を伺いました。《参加者35人：うち組合員23人》

■組合員による二酸化窒素（NO_2）測定

大気汚染（NO_2）の測定を通して身近な環境問題を知り、より良く改善していくために組合員による測定を年２回実施しています。今後も呼びかけを継続していきます。

・６月：配付カプセル数742、回収数700、有効数593、回収率94.4%
・12月：配付カプセル数736、回収数680、有効数589、回収率92.4%

2018年度の廃棄物削減に関する活動

■職員向け廃棄物管理学習会（センター長・内部環境監査員対象）

６月21、22、29日、業務内で取り組んでいる環境マネジメントの一環で、事業所長を対象に近年厳格化されている廃棄物処理法の学習会を開催しました。取引先の収集運搬業者から講師を招いて、「法体系の基本」から2017年に改定された「水銀使用製品産業廃棄物」の対応など、幅広く学びました。廃棄物処理法は事業所の責任範囲が広いため、今後も法令遵守の体制を構築してまいります。

■マスコー製紙バス見学会

７月５日、静岡県富士宮市にあるマスコー製紙株式会社（「り・さいくりんぐ」シリーズのメーカー）の工場見学を開催しました。バスの中ではDVD「パルシステムの３R活動」で事前に学び、工場では紙パックやABパック、注文用紙が商品になるまでの工程を見学しました。見学後は、参加者の質問に対し増田社長が丁寧に答えていただきました。
《参加者19人：うち組合員15人》

■宿題バッチリ！足立配送センター＆杉戸リサイクルセンター　親子バス見学会

８月１日、夏休みの親子企画として、2017年度に建て替えた足立センターとパルシステム連合会のリサイクル施設がある杉戸セットセンターの見学会を開催しました。組合員から回収されたリサイクル品の処理・運搬工程などを学びました。また、足立センターの冷凍庫体験やセットセンターでのドライ商品やカタログをセットする施設も見学することができ、親子で楽しみながら学べる企画となりました。《参加者26人：うち組合員22人》

※環境省「プラスチック・スマート」については、21ページをご覧ください。

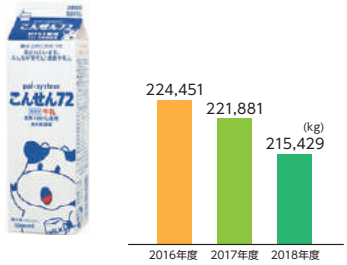
2018 年度の3R（リデュース・リユース・リサイクル）に関する活動

資源循環型社会を実現するために、商品作りや組合員参加を通して３Rの取り組みを進めています。限りある資源を大切に使い、廃棄物を出さないようにリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の優先順位で取り組んでいます。また、パルシステムでは100%国内でマテリアルリサイクルをしています。

リユースびん回収量

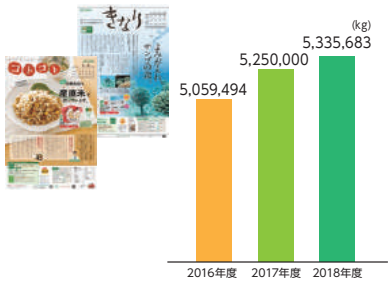
パルシステム全体で6月1回～8月5回に「リユースびん」を戻してポイントをためよう！企画を実施し「環境キャンペーンチラシ」「センターチラシ」「利用明細」などで広報しました。

紙（牛乳）パックの回収量

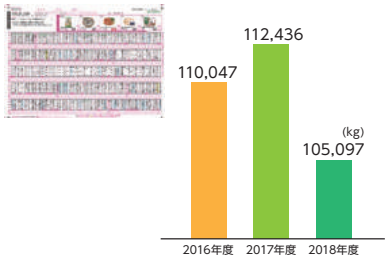


ＡＢパック・ヨーグルトカップの回収量

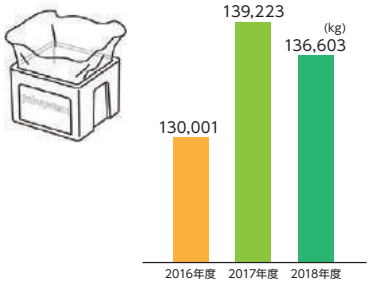
商品カタログの回収量



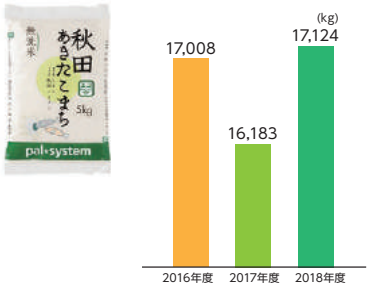
注文用紙の回収量



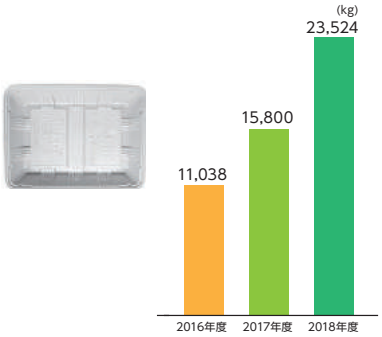
資源プラスチックの回収量



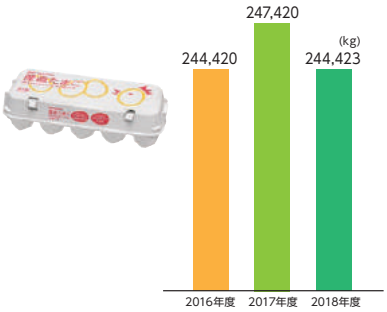
米袋の回収量



お料理セットトレーの回収量



たまごパックの回収量



回収率アップに向けた取り組み

配送センターが年度ごとに設定する環境目標について、7センターが「リサイクル資材の回収率アップ」を掲げ、チラシの配付や組合員への声掛け活動などに取り組みました。また、パルシステム東京独自の広報媒体、「エコ＆ピースナビゲーター」「環境キャンペーンチラシ」などで認知度の向上に努めました。その結果、リサイクル資材８品目のうち、３品目が前年度の回収率を上回りました。引き続き、組合員への声掛け活動や広報媒体を有効活用して回収率の向上に努めます。

生物多様性保全と森林保全 ～里山を体験しよう～

生物多様性保全と森林保全　～里山を体感しよう～

生物多様性保全は、地球温暖化問題、有害化学物質の削減などさまざまな環境課題と密接に関係しています。2018年度は10年目となる中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト「生き物モニタリング調査」をはじめ、かいぼり※後の井の頭池をめぐるツアー、また、いなぎめぐみの里山における健康づくり企画の拡充を行ない、年間で10企画を開催しました。また、パルシステム東京保育園の「ぱる★キッズ府中」「ぱる★キッズ足立」では、多摩産材を使用した内装や国産木材を使用した家具や玩具を取り入れることにより日本の林業の活性化をすすめ、保育理念にも「木育」を掲げ、身近な生き物や自然との触れ合いを大切にした保育の実践を行なっています。

2018年度の生物多様性保全の活動

■中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト「生き物モニタリング調査」

都内各所で組合員の調査員が撮影した「チョウ」の撮影データから、都内の生物多様性の現状や地球温暖化の影響を調べる市民科学のプロジェクトです。身近な地域で、誰でも参加できる生物多様性保全活動として2009年からスタートしましたが、大学側の体制変更に伴い2019年度から活動を縮小し、2021年3月に終了することが決定しました。

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
5月12日	生き物モニタリング調査キックオフ研修会	30人／26人
7月24日	宿題バッチリ！夏休み子ども生きモニ	34人／29人
3月9日	生き物モニタリング調査まとめ報告会	33人／26人

※各企画では、調査員と一般参加者が保全生態学の専門家から解説を受けました。

生きモニキックオフ研修会(5月12日)

夏休み子ども生きモニ（7月24日）

生きモニまとめ報告会（3月9日）

登録者はのべ1,043人、報告件数は41,445件（2009年度～2018年度累計）です。
2018年度の登録者数は91人、報告件数は3,261件でした。

■在来種保護と外来種駆除

「“深”発見！　井の頭池ガイドツアー　かいぼり後の池を歩こう」

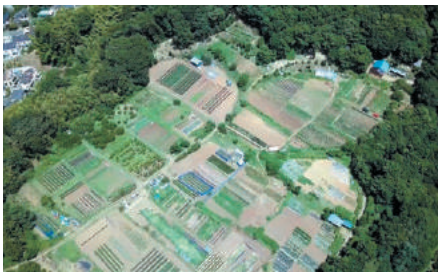
認定NPO法人「生態工房」と連携し、生物多様性保全活動をすすめました。1月、在来種保護と外来種駆除を学ぶ機会として、三鷹市、武蔵野市を中心に「井の頭池　かいぼり※報告会」（主催：井の頭恩賜公園100年実行委員会）の広報協力を行ないました。3月2日（土）には、2017年に井の頭池で実施した「かいぼり」後の成果を見学するツアーを開催し、水質や生態系の改善成果について学びました。《参加者48人：うち組合員44人》

※かいぼり
農業用のため池の水質維持・浄化等のために行なわれてきた管理方法。池や泥の水をくみ出して泥をさらい、魚などの生物を獲り、天日に干します。
最近は外来種を駆除し、生態系を復活させるために、公園の池などでも行なわれています。

2018年度の森林保全の活動

■「いなぎめぐみの里山」における森林保全の取り組み

2017年12月以降、「コープ共済連健康づくり支援」の助成金を活用した健康づくり・森林保全活動を不定期で行なっています。認定NPO法人「JUON（樹恩）NETWORK」の協力を得て、2018年度中で竹林保全の取り組みを6回開催しました。都内にある自然豊かな里山の保全と活用をすすめ、環境と農業、自然を知る機会の拡充をはかりました。



【いなぎめぐみの里山】

京王線の稲城駅から徒歩 15 分という好立地にある里山。東京都内に「農と緑の創生」をキーワードに、地域社会との交流も含め、パルシステム東京の組合員が参加できる一定規模の「場（農と緑の里山体験ゾーン）」として、2004 年に開設しました。2016 年 12 月に土地を取得、2018 年3月 15 日には稲城市の「自然環境保護地域」に指定されました。タケノコ掘りや農産体験、散策やウォーキングなど、年間 40 以上の企画に、約 3500 人が参加しています。

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
5月 19 日	竹の伐採と道づくり	17人／1人
7月1日	竹の伐採と七夕飾りづくり	35人／25人
9月 29 日	竹の伐採と道づくり	13人／0人
10 月 21 日	竹の伐採と道づくり	13人／9人
12 月1日	竹の伐採とミニ門松づくり	16人／12人
2月 23 日	竹の伐採と道づくり	25人／15人

七夕飾りづくり（7 月 1 日）

ミニ門松づくり（12 月 1 日）

自分で伐採した竹を使って道づくり

■「ぱる★キッズ府中」「ぱる★キッズ足立」の森林保全の取り組み

パルシステム東京が運営する保育園、「ぱる★キッズ」では保育理念の一つに「木育」を掲げています。2014 年の開園当初から、子ども達が日常的に木や自然に触れ合える保育を実践してきた「ぱる★キッズ府中」はそれらの取り組みが認められ、2018 年6月に東京おもちゃ美術館（認定 NPO 法人 芸術と遊び創造協会）より、「ウッドスタート宣言園」として認定されました。具体的には、「自然物を活用したアート教室」の実施や、常勤保育士には「木育インストラクター」や「保育ナチュラリスト」の資格取得を推進し、園全体で「木育」に取り組むスキルを高めています。また、2018 年4月には2園目となる「ぱる★キッズ足立」が開園しました。「ぱる★キッズ府中」同様に多摩産材を使用した保育フロア作りや、国産木材の家具・玩具の使用等、木の香りや温かみに包まれた空間は安心感と好感を抱かれると共に、国内林業の活性化にも貢献しています。

「ウッドスタート宣言園」の認定書授与式（6 月 1 日）

多摩産材を使用したぱる★キッズ足立の内装

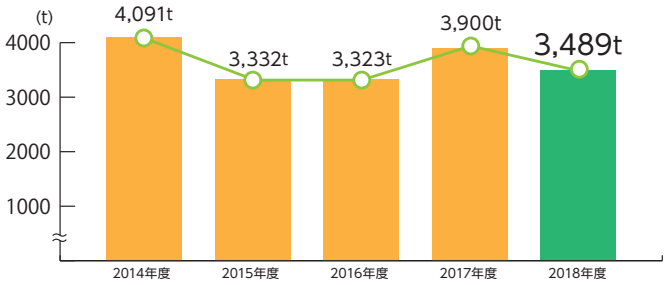
事業活動における資源の使用、排出の状況

事業活動で排出するCO_2排出量の削減に取り組みます。

2018年度はCO_2排出量を3,900ｔ以内の前年度比100%に抑える目標を立てました。結果は3,489tの排出量となり目標より下回りました。電気の使用量は増加しましたが、㈱パルシステム電力の基礎排出係数※が下がったことが大きく影響しています。

※温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数

CO_2排出量の推移（2014年度～2018年度）



㈱パルシステム電力基礎排出係数

2017年度 0.000182 t -CO_2/kWh（2016年度実績）

2018年度 0.000105 t -CO_2/kWh（2017年度実績）

参考＜東京電力エナジーパートナー㈱＞

2017年度 0.000486 t -CO_2/kWh（2016年度実績）

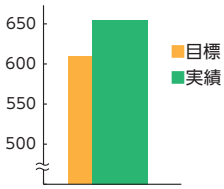
2018年度 0.000475 t -CO_2/kWh（2017年度実績）

※電気の排出係数は環境省・経済産業省公表より㈱パルシステム電力の基礎排出係数を用いています。
車両燃料と施設ガスの排出係数は前年度と同じ係数です。

年度	排出量	総事業高	排出量/総事業高１億円当たり
2014年度	4,091 t	706億	5.79 t
2015年度	3,332 t	726億	4.59 t
2016年度	3,323 t	732億	4.54 t
2017年度	3,900 t	742億	5.26 t
2018年度	3,489 t	752億	4.64 t

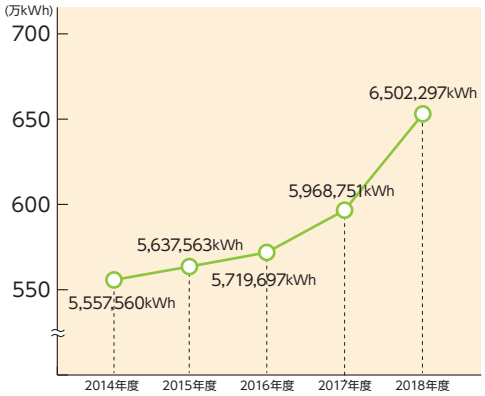
電気の使用量

●2018年度
目標 6,147,814kWh
実績 6,502,297kWh



CO^2換算 683t
排出係数 0.000105t

●電気使用量の推移



■使用量は、各事業所とも微増傾向でした。昭島センターの新築工事や足立、昭島センターの冷凍蓄冷剤を凍結させる冷凍庫の稼働、府中センターのエアコンをガスヒートポンプから電気ヒートポンプに 12 月から切替えたことより増加しました。

2018年10月に開所した
昭島センターの外観

■東京都の事業所向け省エネ診断を受けました。（江東・八王子・府中・池尻・世田谷センター）
2017年度実施した練馬センターの省エネ診断では、設備の改善提案がありました。2018年7月、屋根に「遮熱シート」を設置し、電気使用量の削減に取り組みました。前年度の使用量を上回るセンターが多い中、ほぼ前年度と同様の使用量に抑えられました。

【自家発電用】配送センターの太陽光発電状況／年

足立センター太陽光パネル

大田センター …… 2,593kWh
多摩センター …… 3,028kWh
江戸川センター … 3,728kWh
足立センター …… 52,307kWh

※今後は昭島・八王子センターに設置予定です。

練馬センター 遮熱シート

足立センター
冷凍畜冷剤凍結庫

■冷凍蓄冷剤の導入
2017年度の青梅センターに続いて、足立（35台）・昭島（28台）センターで凍結庫を設置しました。電気使用量は増加しましたが、逼迫しているドライアイスの削減やCO_2削減に貢献しました。
※今後は多摩センターに導入予定です。

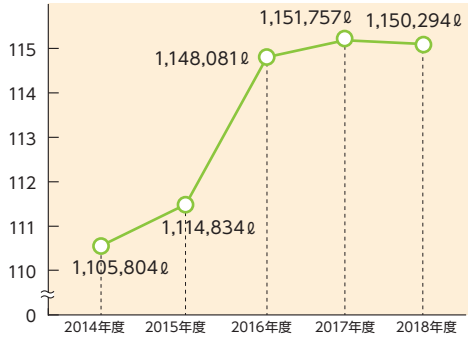
■LED照明の更新
江戸川・港・三鷹・板橋・世田谷センターの照明をLEDに更新しました。2021年には、すべての事業所を全面LED化する予定です。

車両燃料の使用量（ガソリン換算）

●2018年度
前年 1,151,757ℓ
実績 1,150,294ℓ

CO_2換算 2,669t
排出係数 0.00232t

●車両燃料使用量の推移



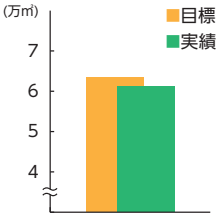
■燃料別の使用量(ℓ)

	種別	2016年度	2017年度	2018年度
車両燃料	ガソリン	524,976	585,649	642,283
	軽油	78,369	104,355	134,606
	LPG	703,624	598,815	472,102
	CNG	18,034	9,041	3,795

■CO_2排出量の推移を見ても約7割が車両燃料からです。車両燃料対策としてEV（電気自動車）研究会を立ち上げ、環境省や自動車メーカーと共にEVトラックの導入をすすめています。

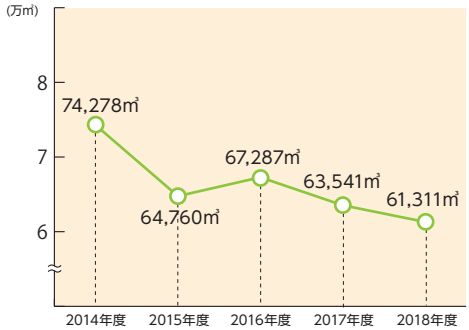
ガス（施設）の使用量（都市ガス換算）

●2018年度
目標 63,541㎥
実績 61,311㎥



CO_2換算 137t
排出係数 0.00224t

●ガス（施設）使用量の推移



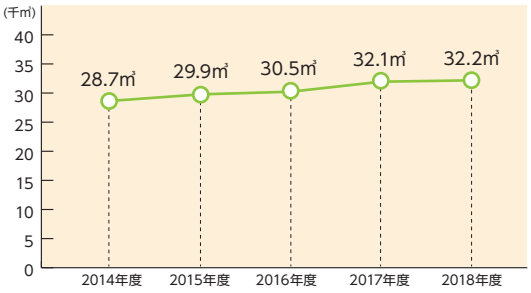
■主な使用量は大田・東村山センターのガスヒートポンプエアコン（ガスを利用した空調）と福祉事業所の入浴サービスです。

■府中センターのガスヒートポンプエアコンを電気に切替え、福祉事業所でも、介護職員の人員不足で利用者の受け入れ人数や営業日を調整しています。そのため入浴利用者も減り、ガスの使用量は減少しました。

2018年4月に開所した足立福祉棟の外観

水の使用量

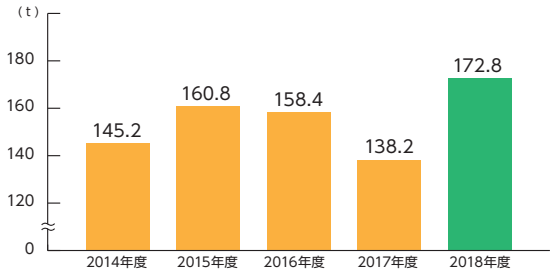
●2018年度
前年 32.1千㎥
実績 32.2千㎥



■主な使用量は、車両の洗車と福祉事業所の入浴などです。
その他、試食会やパルシステム商品を使った朝食の提供（一部センターの独自企画）やシャワー設置などが増加の要因です。

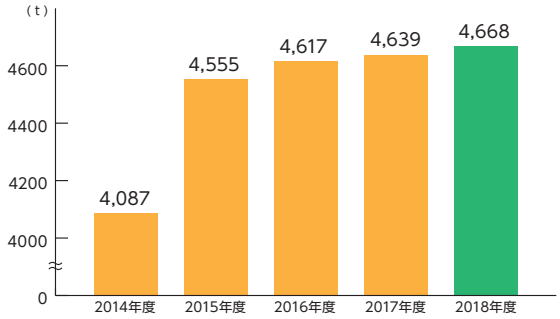
事業活動における資源の使用、排出の状況

OA用紙発注量



■「パルシステムでんき」やおすすめ商品の PR のためセンター丁合の頻度が増えたことが要因です。2018 年度下期後半では本部開催の会議や打合せでは、ペーパーレス会議（タブレット 35 台）に切替えました。

ドライアイスの使用量



■冷凍用蓄冷剤凍結庫新設
ドライアイス不足等のリスク低減や地球温暖化の影響を考え足立センター(35台)昭島センター(28台)に設置しました。

廃棄物削減の取り組み

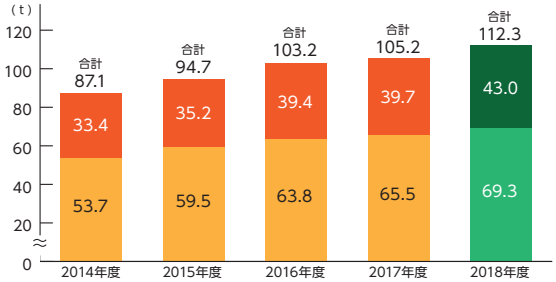
廃棄物量の推移

■2018年度実績

112.3t

■■ 産業廃棄物
■■ 一般廃棄物

廃棄物量は増え続けていることが課題です。



リサイクル食品残さ
(中野・第二中野・府中・足立陽だまり)

年度	廃棄物量
2016 年	6.3t
2017 年	5.6t
2018 年	6.8t※

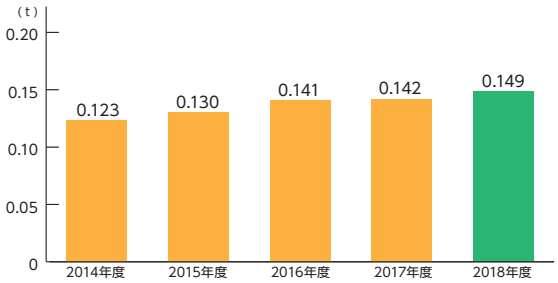
※新設の「足立陽だまり」分が加わりました
※併設の「ぱる★キッズ」とグループホームを含みます

排出量の推移

(排出量 / 総事業高 1 億円)

■2018年度実績

0.149t



■原単位あたりの排出量の推移
(原単位：排出量 / 総事業高1億円)
徐々に増加傾向にあります。
私物の「ゴミ持ち帰り運動」や生ごみの「水きり運動」の啓発ポスターの配付や分別の徹底などをセンター長会議で共有を図りました。

廃棄物削減のために作成した啓発ポスター

年度	排出量	総事業高	排出量／総事業高 1 億円当たり
2014 年	87.1t	706 億	0.123t
2015 年	94.7t	726 億	0.130t
2016 年	103.2t	732 億	0.141t
2017 年	105.2t	742 億	0.142t
2018 年	112.3t	752 億	0.149t

パルシステム東京環境キャンペーンの活動一覧

2018年6月～7月（一部8月開催）

パルシステム東京では毎年6月～7月を環境キャンペーン月間として位置づけ、さまざまな取り組みを実施しています。

主な活動・取り組み一覧 1

環境キャンペーンでは、「一人ひとりが学び、考え、行動する」の目的に沿って環境行動を実践しました。組合員による自主的な学び合いや啓発活動などの取り組み、事業所や本部での役職員による事業推進とあわせた取り組み、それぞれが活発に行なわれました。

※テーマ表記：「エ」エネルギー政策の推進、「有」石けん利用普及と有害化学物質削減、「廃」３Ｒと廃棄物削減、「生」生物多様性保全と森林保全

■委員会、組合員が主体となった活動・取り組み

No.	実施時期	テーマ	企画/取り組み	実施内容	参加数
1	6月～7月	―	委員会の環境キャンペーン企画	石けん、エネルギー、ごみ問題など	227人/16企画
2	5月下旬～	有	石けんサンプル配付	各委員会企画にて配付など活用	16,248点
3	6月1、2日	有	NO_2測定	専用カプセルで765個を測定	599人
4	7月	有	シャボン玉月間ポスター掲示	委員会の環境企画などで掲示	―
5	6月27日（水）	エ	省エネアドバイザー研修	省エネアドバイザーによる自主学習	8人
	7月21日（土）		夏休み親子企画での省エネ講座	企画参加者への省エネ講座（講師、補助）	3人
6	通年	エ	省エネ診断	組合員宅で省エネアドバイス	3件（6月）

【期間中の委員会主催企画の内訳について】
委員会が開催した環境企画は16企画、参加者は226人（委員115人、委員外の組合員77人、子ども25人、組合員外9人）で、テーマは石けん8件、エネルギー問題3件、ごみ問題3件、その他2件でした。

■配送センター、福祉事業所が主体となって呼びかけた活動・取り組み

No.	実施時期	テーマ	企画/取り組み	実施内容	参加数
1	6月～8月	エ	配送センターによる新電力推進	検針票回収施策、新電力チラシ配付、資料受付、契約推進	契約 6,645 件（8月末時点）
2	6月～8月	エ	職員向け電力学習会の開催	パルシステムでんき、新電力事業の解説	6センター /263 人
3	6月～8月	エ	さようなら原発1000万人署名	全組合員へ呼びかけ、回収	6,544 枚 14,608 筆
4	6月～	有	福祉事業所での石けん利用普及	石けん使用ガイドライン運用開始	全事業所
5	6月16日（土）	エ	産直フェスタin練馬	省エネリーフレットの配付、脱原発署名他	244 人
6	6月20日（水）	廃	廃棄物管理学習会	施設長・管理者会議でのミニ学習会	26 人
7	6月24日（土）	エ	三鷹エコマルシェブース出展	パルシステムでんき推進 （三鷹センターと NPO 法人みたか市民共同発電の連携）	20 人 （アンケート回収）
8	6月2回	有	石けん利用普及（PB石けん） YUMYUMベビーソープ	エコ＆ピースナビゲーター掲載、呼びかけ	前年比 120%
9	6月29日（金）	廃	廃棄物管理学習会	センター長会議にて廃棄物処理法の学習	20 人
10	6月30日（土）	有	ぱる★キッズ府中 石けんサンプル配付	梅ジュースと梅干しづくり企画での デモンストレーションとサンプル配付	39 人
11	7月	有	シャボン玉ポスター掲示	配送センター、福祉全事業所で掲示	―
12	7月2回	エ廃	パルシステムでんき・３R	エコ＆ピースナビゲーター掲載、呼びかけ	―

主な活動・取り組み一覧 2

■本部主催の活動・取り組み

No.	実施時期	テーマ	企画/取り組み	講師/訪問先など	参加人数/組合員数
1	6月9日（土）	有	お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験＆学習会	東京農工大学　高田秀重氏	29人/21人
2	6月13日（水）	有	玉の肌石鹸工場見学会	玉の肌石鹸株式会社	26人/20人
3	6月14日（木）	エ	那須野ヶ原小水力発電施設バス見学会	那須野ヶ原土地改良区連合専務理事 星野恵美子氏、ほか職員	22人/17人
4	7月1日（日）	生	竹の伐採と七夕飾りづくり inいなぎめぐみの里山	認定NPO法人「JUON（樹恩）NETWORK」	35人/25人
5	7月5日（木）	廃	マスコー製紙富士宮工場バス見学会	マスコー製紙株式会社	19人/15人
6	7月19日（木）	有	香害学習会～香害110番を開設して～	日本消費者連盟　田中輝子氏	35人/23人
7	7月21日（土）	エ	自由研究はこれでOK！ソーラーカー工作教室＆地球温暖化講座	NPOみたか発電理事　小笠原俊文氏 パルシステム東京省エネアドバイザー	35人/23人
8	7月24日（火）	生	宿題バッチリ！夏休み子ども生きモニ	中央大学協力研究員　須田真一氏 東京大学　安川雅紀氏	34人/29人
9	8月1日（水）	廃	宿題バッチリ！足立配送センター＆杉戸リサイクルセンター親子バス見学会	足立センター、パルシステム連合会	26人/22人
10	8月4日（土）	エ	エネルギー政策学習会	isep（環境エネルギー政策研究所）所長　飯田哲也氏	47人/31人
11	6月～7月	有	子育て個育てワークショップで石けんサンプル配付（me・gu・ru [めぐる]ボディソープミニ）		4企画50人
				合　計	358人/276人

Plastics Smart

「プラスチック・スマート」キャンペーン：環境省が 2018 年に立ち上げたキャンペーン。各省庁・業界団体・企業・自治体・NGOなどの幅広い主体から、海洋プラスチック問題の解決に貢献する“プラスチックとの賢い付き合い方”を募集するものです。パルシステム東京は、上記の取り組みのうち、1. お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験＆学習会と9.宿題バッチリ！足立配送センター＆杉戸リサイクルセンター親子バス見学会を「プラスチック・スマート」に登録し、キャンペーンサイトに掲載されました。

※ 13 ページも併せてご覧ください。

リユース・リサイクル商品一覧

パルシステムでは、お届けしたもののうち、特定の容器・包装は毎週回収し、資源循環と廃棄物の削減に取り組んでいます。リユース・リサイクル対象商品やカタログに表示している「Rマーク」が目印です。

〈2018 年度保存版〉

リユースびん

トマトといちごの外箱

紙パック・ABパック

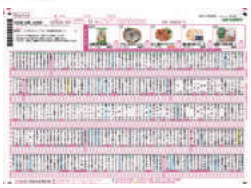
ヨーグルトカップ

たまごパック

「お料理セット」トレー

米袋・プラスチック袋

商品カタログ



注文用紙

リユースすることが難しい商品カタログや容器包材なども、パルシステム独自の回収・リサイクルの仕組みづくりに取り組んできました。回収された資源はパルシステムのリサイクルセンターで選別・圧縮などの処理をして再生工場へ送られ、新しい商品やカタログ、再生原料などに生まれ変わります。

2018 年度環境関連広報物一覧

年間を通じて、様々な情報発信を行ないました。この他、機関紙やホームページでも広報を行ないました。

～環境キャンペーンの特集チラシ～

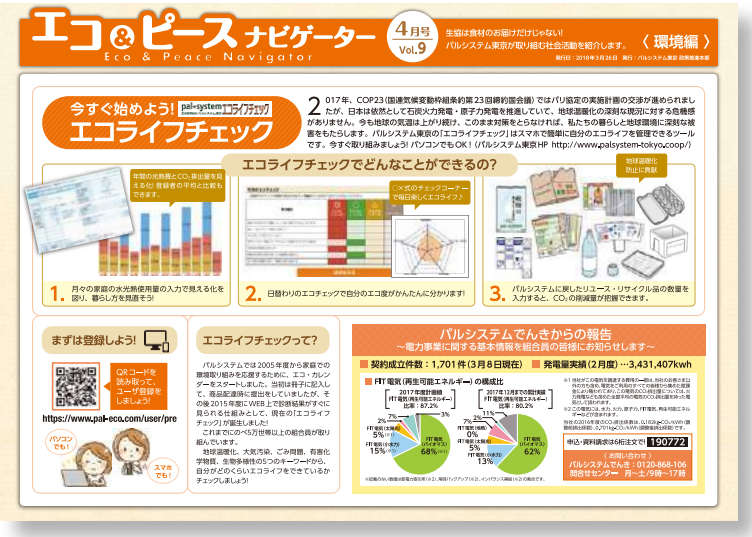
5月発行の組合員向け広報媒体『週刊WITH YOU』でお知らせしました。
2018年度は、前年度に続いて地球温暖化防止をテーマに、白熊をモチーフにしたチラシで訴えました。

～環境キャンペーンの取り組み参加募集～

環境キャンペーン期間中の９つの体験型企画について組合員にお知らせをしました。
体験型企画を増やした結果、多くの企画で抽選となりました。

～エコ&ピースナビゲーター～

2017年に創刊した環境活動に関する情報誌、「エコ&ピースナビゲーター」を2018年度は7回、様々なテーマで発行しました。
※片面は「平和と国際連帯」のテーマで作成しています。



■4月号「エコライフチェック」

■6月号「石けん特集」

■7月号「環境キャンペーン特集号(表:3R)」

■7月号「環境キャンペーン特集号(裏:パルシステムでんき)」

～エコ&ピースナビゲーター～

■8月号「SDGs特集」

■ 10 月号「有害化学物質削減関連の取り組み報告」

■12月号「地球温暖化防止、省エネ特集」

■2月号「生物多様性保全、SDGs企画募集」

2018 年度環境活動に関する監査所見

環境監査委員長　青木　玲子
技術士（環境部門）、エコアクション 21 審査員

現在、地球規模の気象や生態系の異常発生は改善が見られず、一刻を争う状況であり、各国や業界が連携した産業構造の転換や技術革新が急務です。

2018 年夏以降、国内外で脱プラ動向が加速し、2019 年 6 月には G20 で海プラごみ対策の国際枠組が合意され、産業界での SDGs 活動も拡大し、EV シフトの鮮明化など急速に変化しています。

再エネの潮流を創り出したパルシステム東京は、パルシステムでんきによって再エネを供給開始し、大変先進的で評価されます。

今後は、再エネ電力供給の一層の拡大、FIT 終了家庭の余剰 PV 電力の活用、家庭用蓄電地の普及を含め、再エネ・蓄エネの拡大、充電インフラ整備にも関わることを目指して下さい。自然エネルギーで充電した EV 車両による配送の実現によって、国内外で産業界が目指す“Well to Wheel Zero Emission”、エネルギーの調達段階から車両走行までの全工程における温室効果ガス排出ゼロ化、クリーン化の先進事例となって下さい。

食品ロス抑制の機運も高まる中、従来の食育実績を活かした取り組みによって業界をリードしていって下さい。

環境監査委員会では 2018 年度もパルシステム東京の事業所を現地訪問し、環境マネジメントシステムの運用や目標管理や遵法状況を確認しました。

組合員への啓発や事業所での省エネや省資源活動は日々実践され、事業拡大の中での事業所からの環境負荷低減目標が達成されていることが大いに評価されます。

運用面の対策に加え、設備においてもドライアイスに代わる蓄冷材や冷凍冷蔵設備への自然冷媒の実証導入に取り組んでいることが評価されます。

新規制の水銀使用製品廃棄物へも適切に対応し、法の解釈変更も把握されるなど遵法管理が向上しています。今後は組織内の情報共有に加え、関連団体へも環境規制動向について積極的な情報発信を行っていく役割も期待されます。

福祉事業所では入居者への温かい配慮が利用者に高く評価されています。事業特性上は環境保全活動が難しい面がある中での取り組み推進に敬服いたします。

本部ではパルシステム連合会と連携し、PB 商品でのプラ低減や回収再利用を行い、プラ削減にも商品開発段階から取り組んでいることが評価されます。

今後も、脱炭素・脱原発・生態系保護・食の安全の取り組みにより、衣食住全般に渡って安心を提供する事業をさらに発展させていただくことを願っています。

環境監査委員　坂倉　興治
東京都環境学習リーダー、環境カウンセラー

2018年度よりパルシステム東京では、事業と活動がＳＤＧsのターゲット（経済・社会・環境）に関連性を目指しています。また近年、プラスチック問題の解決に向けた、環境省の「プラスチック・スマート」フォーラムへの企画報告と「プラスチック資源循環戦略案」へ意見書を提出しています。

環境監査委員会では、事業所事項として、環境関連法規や条例の確認及び内部監査の向上を加速させています。

福祉事業は介護事業と保育事業の経営基盤の構築を推進中で、今後も介護人材確保とサービスの向上が期待できます。

2018年度（２月末時点）の環境目標と目的状況については、高い環境意識で達成しています。

＜再生可能エネルギーの拡大化の取り組み＞

パルシステムでんきは目標7,000世帯に対し、実績7,897世帯となり、今後も期待できます。

＜脱原発社会の実現に取り組む＞

脱原発と再生可能エネルギーに関する意見書を２件、抗議文１件を提出しており目標達成に値します。

＜CO_2排出総量の削減＞

電気CO_2排出量目標は、1.50t → 実績：0.91t

ガスCO_2排出量目標は、0.181t → 実績：0.177tで、共に目標を達成しています。

<資源循環型社会を目指した活動の進め>

廃棄物量は事業所の増加があるも、目標0.140t → 実績：0.151tに抑制し、各事業所とも着実に向上しています。

<生物多様性の保全の取り組み>

生き物モニタリング調査まとめ報告会を実施済み。また在来種保護については、「井の頭公園の池かいぼり成果見学会」を開催して目標を達成しています。

環境監査委員　佐藤　穂貴
弁護士

貴組合は、事業規模が着実な成長をみせる中、利用組合員の定着や若年層への拡大を課題に挙げている。また職員の在籍率の向上も課題である。働き方の見直しが叫ばれている昨今、環境活動をはじめとする持続可能な社会の実現に向けた貴組合の積極的な取り組みは、利用者も職員も総じて共感できるところである。このような姿勢や理念を重視した組織のさらなる広がりに、今後も期待したい。

事業拡大に際し大切なことは、組織としての理念等を新たな現場や人々の間にも具体的な施策として普及することである。新たな拠点を作る場合、運用開始前の段階では工事等による周囲に対する環境影響への配慮が求められる。また運用開始後は、他の既存施設の目標等を参考に、業務上の環境負荷の抑制の取り組みに早期に着手すべきといえる。貴組合においては配送センターや福祉施設ともに、実効性のある取り組みの速やかな開始が望まれる。実際、施設拡大に伴い本年度は電気総使用量が増加し年度目標を上回った。節電の個別取り組みはもちろんのこと、設備更新による省エネ化等も順次図られたい。

また法令遵守は常日頃要求されるが、その履践には法令の改正動向や行政通達の把握等が欠かせない。本年度の現地監査では本部による廃棄物処理の委託方法の変更が確認されたが、運用も含めたルール変更を適時に捉えて関係者が情報共有し、組織として漏れなく対応できる仕組みづくりを今後も重視いただきたい。

環境監査委員　髙木　健治
パルシステム東京　組合員

2018 年度のパルシステムの環境活動は大変素晴らしいものでした。
環境目標はほぼ全て達成でき、特に CO_2 排出総量の削減は目標を大幅に越えて達成できました。また、昨年指摘した改善のスピードアップはかなり良くなってきたと感じます。

パルシステムの今後の環境活動の課題および期待することを以下に記します。

1．法規制対応に抜けがないようにして下さい。そのためには責任者は法規制に大いなる関心を持つ必要があります。法規制は社会の変化に応じて改正されますので、社会の動きを的確に捉えるようにして下さい。

2．廃棄プラスチックが世界的な問題としてクローズアップされています。パルシステムもプラスチックの削減に取り組んでいますが、社会の関心が急速に高まった今、削減活動の更なるブラッシュ・アップが期待されます。パルシステムでは商品開発・設計はパルシステム連合会が行っていますので、プラスチック削減はパルシステム連合会との密接な協力体制が必要ですし、組合員への的確な情報提供も重要と思われます。

環境活動は事業と無縁ではありません。環境活動を通じて、社会から信頼されるパルシステムとなれるよう、関係者全員が努力されることを期待します。

環境監査委員　中村 正子
パルシステム東京組合員理事（2018 年度）

環境監査報告書では具体的な改善点が指摘されますが、大事なのは、その後、指摘を共有して、いかに改善に取り組むかということです。2017 年度から 2018 年度の監査ポイントの一つが、廃棄物関連法の遵守や産業廃棄物・一般廃棄物保管場所の明確な掲示などでした。2019 年 1 月末から 2 月始めの監査によりそれらの指摘を受けたパルシステム東京では、2019 年 3 月末には、蓄冷材が廃棄時には産業廃棄物の「汚泥」に分けられること、その廃棄方法の手順などを各事業所に周知するなどの対応が迅速になされ、監査委員会に報告がありました。

また、新設の昭島センターには、有害なフロンガスではなく、自然冷媒による冷凍冷蔵設備がすでに導入されました。今後の新設センターには同種の冷凍冷蔵設備を導入するとのことで、嬉しい情報です。

2016 年の電力の自由化以前から、パルシステム東京が FIT 電気（再生可能エネルギー）・自然エネルギー利用の開発 (産直電気など) に積極的に取り組んできた報告を受けてきました。それがパルシステム電力事業に継承され、2018 年度の「供給数を 7000 世帯に拡大する」というパルシステム東京の目標数は、2019 年 3 月末で契約保有件数 7854 世帯となっています。これも、発電施設の見学会や組合員・職員向けの各種学習会などを地道に積み重ね、地域イベントやセンターまつりなどで積極的に情報を伝えてきた成果です。

地球温暖化を防ぎ、原発に頼らない社会を実現させるために、電源構成に占める FIT 電気（再生可能エネルギー）比率が 78.8％と高いパルシステムでんきが、さらにパルシステム東京に広がることを期待しています。

環境監査副委員長　米川　珊
パルシステム東京　組合員

2018 年度、環境監査対象は新設された足立福祉施設でした。パルシステム東京は環境と共存共栄しながら、CSR 社会的責任を果たしており、実践力が良いと評価します。

入居者に提供するお料理の食材は主にパルシステム東京から調達して、お料理は手作りで和食中心です。福祉施設「ディーサービス陽だまり」と認可保育園は同居しています。入居している老人の方がたは通い始めてからそれぞれの認知症症状を改善され、更に同居している園児と対面した時癒されている笑顔が増えてきたと説明を受けました。

園児は木の温もりが豊かな床の上に自然に寝そべり、大自然を触れた気分で自由自在に日々を過ごしています。保護者からも高い評価を受けています。

職員の方がたはできるだけ世の中の行事、入居者のお誕生日などの記念日に格式を上げ、園児も一緒に参加させ、食環境全般に演出するよう工夫しました。

愛していると愛されている気持ちをお互いに伝わっていけたと伺いました。平凡な生活は儀式感を味わい、より幸福度が高まるとの専門家の研究レポートをよく目にします。

日本は人生 100 年時代に入り、深刻化してきた超高齢者社会と少子化社会に墜ちています。パルシステム東京の活動は日本の社会を悩ましている現実の問題を緩和させているとも言え、環境問題だけ取り上げるのではなく、社会の各側面の問題を視野に入れて、CSR 社会的責任を努力してきました。

ところが、パルシステム東京の中に他の地域で同類施設のデータが足立福祉施設の責任者に大いに参考になっていけば、より活動がし易くなると思われます。

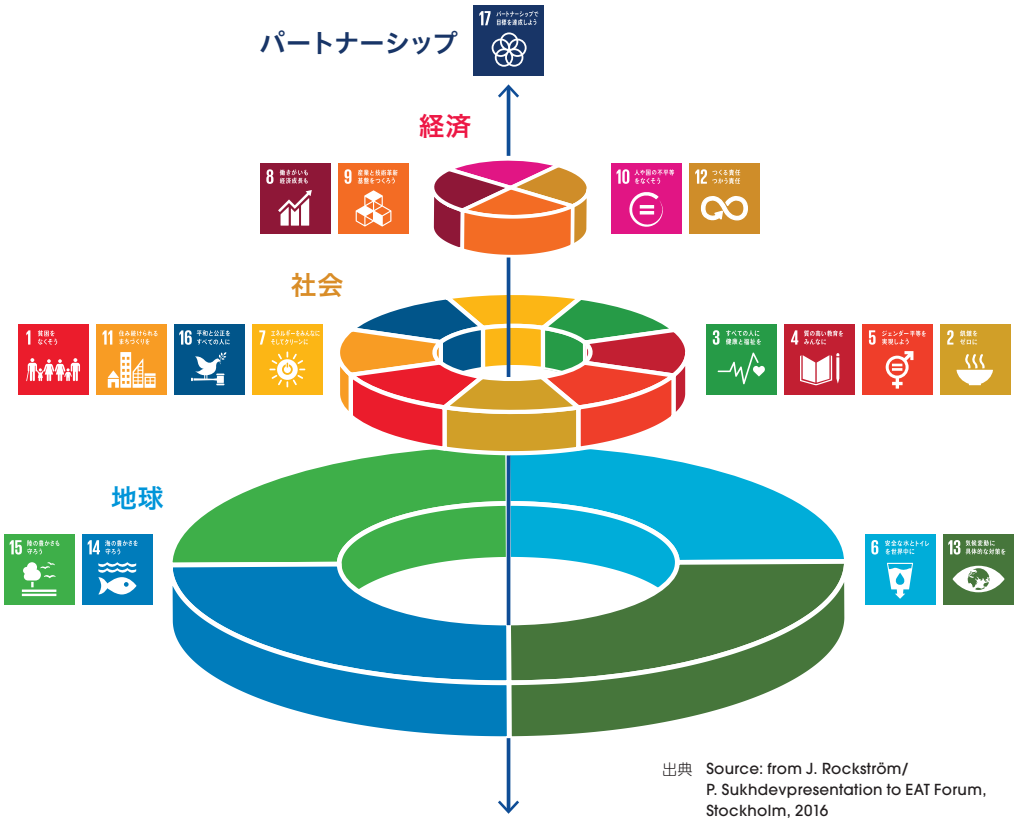
パルシステム東京は「人的資本」が理念の一つであり、このように高いレベルで実践されていると考えます。

平成から令和になり、パルシステム東京の時代と共に進む活動を検証しながら、この委員会の一員として微力ながら活動させて頂けたのは大変光栄です。

環境監査委員会 : 環境マネジメント活動に関する諮問機関。環境管理最高責任者がパルシステム東京の環境マネジメント活動の状況を報告し、評価や改善意見、要望、提案を受け、環境マネジメント活動の一層の向上をはかることを目的として設置されている。

～SDGsと協同組合～

国連や日本政府は、協同組合を「役割を果たすべき民間セクター」「連携するステークホルダー」と位置づけ、市場原理だけで解決できない課題への社会的機能として期待しています。



出典　Source: from J. Rockström/
P. Sukhdevpresentation to EAT Forum,
Stockholm, 2016

「経済」は「社会」の上に成り立ち、また「社会」は健全な「地球（環境や資源）」の上に成り立っています。
「持続可能な開発」への課題を解決するためには、経済優先の社会から一度立ち止まり、地球環境を大切にする「パートナーシップ（行政・企業・NPO 等）」との連携を目指すことが必要です。

生活協同組合パルシステム東京

発　行　生活協同組合パルシステム東京　政策・環境推進部　環境推進課
〒169-8526 東京都新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7F
TEL 03-6233-7642

ホームページ　パルシステム東京　検索
http://www.palsystem-tokyo.coop/

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C111730
VEGETABLE OIL INK　このカタログは環境に配慮しFSC®認証および植物油インキを使用しています。

発行日　2019 年 7 月 31 日